リコーの
新しい環境経営目標と
RE100参加について

RICOH
imagine. change.

リコーグループの概要

- 株式会社リコー

  設立：1936年2月6日
  資本金：135,364百万円
  代表取締役 社長執行役員：山下良則
  本社事業所：東京都中央区銀座8-13-1

- リコーグループの概要

  グループ企業数：226社
  グループ従業員数：105,613名
  （国内：35,490名、海外：70,123名）
  連結売上高：20,288億円
  （国内：37.8%、海外：62.2%）

＊グループ企業数は（株）リコーを除く
2017年3月31日現在（連結売上高は2017年3月期）

株式会社リコー
代表取締役 社長執行役員
山下良則

事業分野と主な商品・サービス

複合機やプリンターなどの情報機器・ITソリューションを中心に、事業を展開。

● 画像＆ソリューション分野

・オフィスイメージング

ＭＦＰ（マルチファンクションプリンター）、複写機、
プリンター、印刷機、FAX、スキャナ等機器
及び関連消耗品、サービス、サポート、ソフトウェア等

・プロダクションプリンティング

カットシートPPC（プロダクションプリンター）、
連帳PP等機器及び関連消耗品、
サービス、サポート、ソフトウェア等

・ネットワークシステムソリューション

パソコン、サーバー、ネットワーク関連機器、
関連サービス、サポート、ソフトウェア等

● 産業分野

サーマルメディア、光学機器、電装ユニット、半導体、
インクジェットヘッド等

● その他分野

デジタルカメラ等

MFP
マルチファンクションプリンタ

高速連続用紙インクジェット
プリンティング・システム

全天球カメラTHEATA

一眼レフデジタルカメラ

レーザープリンタ

短焦点プロジェクタ

19次中期経営計画 リコーが向かう方向性

●企業理念に基づいて、お客様ファーストで行動し、お客様と社会から必要とされる会社になる

提供価値

Value Proposition

➡ **「EMPOWERING DIGITAL WORKPLACES」**

19次中計において、リコー全社員一丸となって向かっていく方向性をお客様へ提供していく価値として表現。

社会へのお役立ち

サステイナビリティメッセージ

➡ **「Driving Sustainability for Our Future.」**

社会課題に広く目を向け、新しい市場や提供価値を生み出し、社会の発展とリコーの成長を同時に実現する。

コーポレートブランド

ブランドメッセージ ➡ **「imagine.change.」**

リコーブランドの核心として私たちが、どのように力を合わせていくのか、どのようにお客様のビジネスに新しい価値をお届けするのか、市場とどのように 関わっていくのか。簡潔で力強い2つの動詞で表現

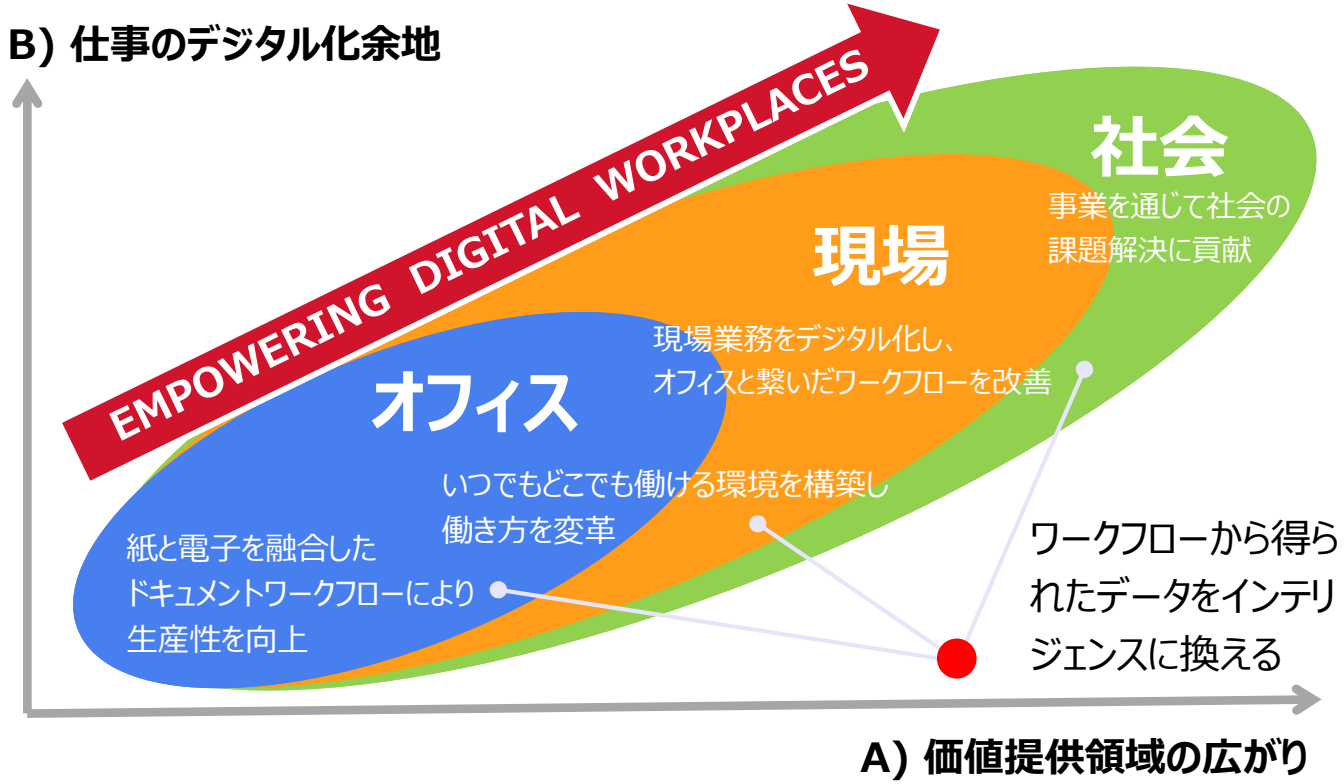
企業理念

リコーウェイ

＜創業の精神:三愛精神＞ 人を愛し、国を愛し、勤めを愛す

＜経営理念＞ 私たちの使命・私たちの目指す姿・私たちの価値観

ワークプレイスの広がりと「知の創造」支援へ向けて



知の創造支援のプロセス(イメージ)

Capture
様々な情報を最適なデバイスで収集

Analytics
データを分析しインテリジェンスに変換

Print/Display
様々な情報を最適なデバイスで出力

Consulting
インテリジェンスを提供し
お客様の課題解決を支援

A) 価値提供領域の拡大

“従来の一般オフィス”から、“ワークプレイス(働く場所)”へ。 さらには**社会へと拡大する。**

B) 仕事のデジタル化

人が活動する「オフィス」「現場」「社会」というそれぞれの「場」の仕事をデジタル化する。
デジタル化された仕事を繋ぎ、蓄積データを分析することで、お客様の「知の創造」を支援する。

国連が定めた持続可能な開発目標（SDGs）の活用

RICOH imagine. change.

国連で合意された**2030年までの世界的な優先課題**および世界のあるべき姿を定めた**世界共通のゴール**。17の目標と169のターゲットで構成。

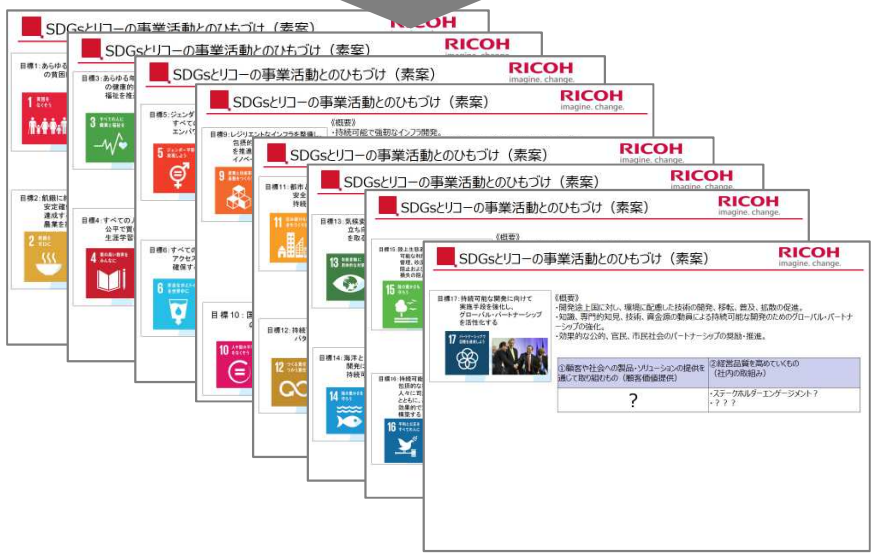
①リコーが取り組む５つの重要社会課題とSDGs

RICOH imagine. change.

リコーの事業・テクノロジーで解決に貢献できる度合の大きなSDGsを選択

リコーの事業

- オフィス プリンティング
- オフィス サービス
- 商用 印刷
- 産業 印刷
- サーマル
- 産業 プロダクツ
- Smart Vision
- 事業 開発



SDGsとリコーの事業活動とのひもづけ（素案）

RICOH imagine. change.

目標7：すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する

《概要》
・安価かつ信頼できる現代的エネルギーサービスへのアクセス。
・再生可能エネルギーの利活用。
・エネルギー効率の改善。

①顧客や社会への製品・ソリューションの提供を通じて取り組むもの（顧客価値提供）	②経営品質を高めていくもの（社内の取組み）
・再生エネルギー事業 ・マイクロ水力、バイオマス利用 ・太陽光Ｏ＆Ｍ	

目標8：すべての人々のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワークを推進する

《概要》
・一人当たりの経済成長率の持続。
・多様化、技術向上、イノベーションを通じた高いレベルの生産性。
・雇用創出、起業、創造性、イノベーションの支援と中小零細企業の成長支援。
・完全かつ生産的な雇用、働き甲斐のある人間らしい仕事、同一労働・同一賃金の達成。
・強制労働の根絶、児童労働の禁止及び撲滅。
・労働者の権利の保護と安全・安心な労働環境の促進。
・地方の文化振興、産品販促につながる持続可能な観光業の促進。
・銀行取引、保険、金融サービスへのアクセスの促進。

①顧客や社会への製品・ソリューションの提供を通じて取り組むもの（顧客価値提供）	②経営品質を高めていくもの（社内の取組み）
・プリンティング、イノベーションによる生産性向上 ・知の創造 ・VC事業による働き方変革	・生産性向上 ・働き方改革 ・ダイバーシティ推進

①リコーが取り組む５つの重要社会課題とSDGs

リコーとして事業を通じて解決に取組む８つのSDGs

①リコーが取り組む５つの重要社会課題とSDGs

RICOH imagine. change.

８つのSDGsをリコーウェイ、事業戦略、環境経営の取組みに紐づけて５つの重要社会課題として設定

・リコーウェイ

生活の質の向上

・事業戦略

生産性向上

知の創造支援

・環境経営

脱炭素社会の実現

循環型社会の実現

①リコーが取り組む５つの重要社会課題とSDGs

８つのSDGsをリコーウェイ、事業戦略、環境経営の取組みに紐づけて５つの重要社会課題として設定

・リコーウェイ

生活の質の向上

・事業戦略

生産性向

知の創造支

・環境経営

脱炭素社会の実現

②新しい環境目標の設定（2030年･2050年）

■リコーグループ環境宣言

「環境負荷削減と地球の再生能力向上に取組み、
事業を通じて脱炭素社会、循環型社会を実現する。」

■環境目標（温暖化分野）

- スコープ1、2(自社ｵﾍﾟﾚｰｼｮﾝ)は、2050年ゼロ、2030年30%削減
- 使用電力を2050年までに100%、2030年までに少なくとも30%、再生可能エネルギーで賄う
- スコープ３(調達･使用･輸送)の目標は2030年15%削減

②新しい環境目標の設定（2030年･2050年）

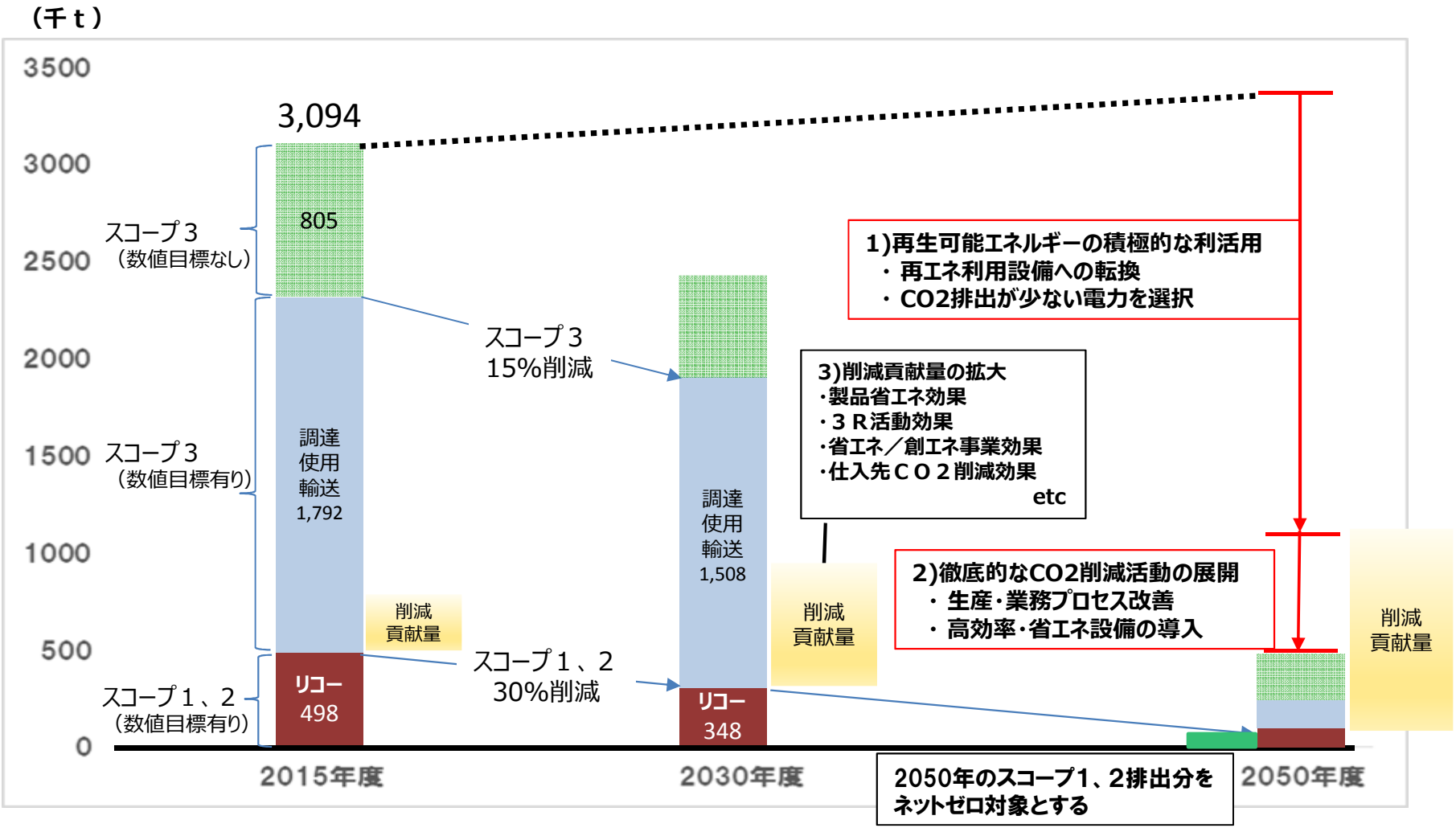
RICOH imagine. change.

1）再生可能エネルギーの積極的な利活用

2）徹底的なCO2削減活動の展開

3）顧客･社会の省エネ･CO2削減を拡大(削減貢献量)

仕入先企業や顧客にも協力を働きかけ、社会全体での取り組みを促進する



③ RE100への参加表明（日本企業として初）

リコーの再エネ活用目標

使用電力を2050年までに100%、2030年までに少なくとも30%、再生可能エネルギーで賄う。

RE100参加理由

- 再エネの積極活用の企業姿勢をグローバルに明示し、社内の意識づけを図る。
- 推進中の省エネ、創エネなどエネルギー関連ビジネス展開の後押しを図る。
- ESG投資、各種企業評価制度における評価向上に繋げる。
- 電力需要家の立場から再エネの必要性を意思表示、供給側の変革を促す。

RE100とは

事業に必要な電力を100%再生可能エネルギーで賄うことを目指す国際的な企業集団。

ＲＥ参加企業数　95社　（2017年5月）

ネスレ、イケア、ナイキ、BMW、GM、HP、フィリップス、P&G、スターバックス、コカコーラ、ユニリーバ、ウォルマート、 ゴールドマンサックス、バンク・オブ・アメリカ、UBS、グーグル、フェイスブック、ブルームバーグ、**リコー**など

RICOH
imagine. change.